～ 市民とともに　栗東をよりよいまちに ～

市民参画と協働によるまちづくり通信



No.127
令和8年11月18日発行

≪問合せ≫　自治振興課
TEL　：　551 - 0290
（内線：3520）
FAX　：　551 - 0432
メール：jichishinko@city.ritto.lg.jp

市民活動団体へ交付される助成金とは？

市では「みんなの力でつくる元気都市栗東」を実現するため、市内を拠点に活動する、あるいは活動しようとするNPOや市民活動団体（自発的で公益的な活動を行う団体）の自立に向け、助成金の交付やサポート講座の開催などによる支援を行っています。あなたが所属している団体や、これから立ち上げようとしている団体も、支援を受けられるかもしれません。来年度の募集は令和９年８月２日（月）～令和９年８月３１日（火）の予定です。

	協働事業提案制度 RITTO PARTNERSHIP	元気創造まちづくり事業 RITTO GRANT	未来へつなぐ市民活動応援事業
対象	市との協働事業を提案・実施する団体	地域活性化や地域課題解決を目的に活動する団体	
助成金	助成対象経費の４分の３以内（上限 100 万円）の助成金を最大３年間受けられる	助成対象経費の４分の３以内（上限　20 万円）の助成金を最大３年間受けられる	ふるさと納税の使途に３年間（更新可）登録され、寄附を募ることができる
	いずれの助成金も、書類審査・プレゼンテーション審査の結果、採択が認められた場合に交付されます。		
サポート講座の例	🕮 助成金の特徴と探し方、助成金を獲得するためのポイントを学ぶ 🕮 活動が伝わる申請書の書き方、プレゼンテーションの手法を学ぶ		

「栗太の歴史をつなぐ会」活動報告

今回ご紹介するのは、元気創造まちづくり事業に採択され、市が伴走支援しているこちらの団体です！

栗太（くりた）の歴史をつなぐ会

―栗東市の史跡や遺跡の魅力を広く発信して、市民の地域愛・歴史意識を育む―



歴史散歩
遺跡見学会
勉強会
ジオラマ作成・展示
遺跡保存整備
情報発信

裏面で活動内容をご紹介！　水田の下に眠る遺跡　とは…？

栗太の歴史をつなぐ会
会員さんに聞いた

水田の下に眠る遺跡 とは…？
次世代に どう伝える？



――「水田の下に眠る遺跡」とは、ロマンチックですね。どんな遺跡なのでしょう？

Kさん：遺跡の名称は、栗太郡衙岡遺跡です。名神高速道路と金勝川に挟まれた田園地帯にあります。

――「栗太」とは？「郡衙」とは？

Kさん：奈良時代の「栗太郡」は現在の栗東市・草津市の全域と、守山市・大津市の一部を含むエリアです。「郡衙」は役所のことで、戸籍の作成、稲や布等の徴収管理を行っていました。

――この遺跡の大きさは、どれぐらいですか？

Kさん：東西は２００m、南北は３００mに及びます。

――えっ、そんなに大きいのですね！それなのに、あまり知られていないように思うのですが…。

Kさん：はい、とても残念なことです。知られていないのは、遺跡が水田の下にあるからです。何気なく散歩をしていても、遺跡があるとは気づきません。

――知ってもらうための方策はあるのですか？

Kさん：ジオラマを作成し、催しの時期に合わせて施設に展示してもらうなどして、多くの方にご覧いただく予定です。また、3DCG 動画（右上画像参照）はすでに作成しまして、現在配信中です。ぜひご覧になってください。こうした文化財を活かした活動により「栗東市の魅力を高めるまちづくり」に貢献したいと考えています。

――今後の活動で目指していることはありますか？

Kさん：他にも歴史散歩や勉強会、遺跡見学会など、さまざまな活動をしています。鳥瞰図（鳥が斜め上から地上を見下ろすように描いた図）の描き方講習では会員以外の方にもご参加いただき、喜びのお声をいただいています。いろんな方に参加してほしいですね。興味のある催しだけに単発参加していただくのも大歓迎です。それがきっかけとなり、栗東市の歴史への興味、栗東市を誇らしく思う気持ちにつながれば、うれしい限りです。

活動紹介

▼鳥瞰図描き方講習



会員以外の方にもご参加いただきました



鳥瞰図に興味をおぼえたので、子どもと一緒に参加しました。点をつないで形になっていくのが楽しかったです♪（参加者の声）

▼月例会



いよいよジオラマの試作が始まりました。みんなのアイデアが形になっていくのが楽しみです！（会員の声）



栗太郡衙岡遺跡の八脚門・正殿の模型づくりを開始



お隣の三重県で郡衙の移り変わりを学びました

▲久瑠倍官衙遺跡見学（三重県四日市市）

会員募集中！

歴史に興味がある方
散歩が好きな方
栗東市に貢献したい方
新しいことを始めてみたい方

✦取材後記✦ 何気なく歩く道。歴史を知って歩く道。同じ道でも、歩くときの感情が違ってきます。歴史を心にいだいて暮らせば、まちへの愛着も増していくことでしょう。文化財の魅力を発信することも、まちへの貢献手段として意義深いと思いました。まず自分が歴史を知り、その発信方法を探り、実行に移す。この過程が、活動において非常に丁寧に行われています。初心者にも細やかな伝授があります。団体名にも「つなぐ」とあるように、歴史はつないでいくものであり、広い世代の方が集えばおもしろい知恵が生まれるかもしれません。興味をお持ちになった方は、勉強会や見学会に参加してみてはいかがでしょうか。